Ｎ－２０のはじまり

１９９１年

地球環境問題、ソ連・東欧の激動、湾岸戦争などにより、エネルギー・原子力をめぐる情勢は激動しており、国内にみるべき資源を持たない日仏両国は原子力開発への全面的な取り組みに最大限の努力を向けている。

このような状況の中で、両国の原子力関係者が、原子力開発計画とその背景となる考え方などについて、率直な意見・情報の交換を常に続けていくことは、両国の開発と協力を促進する上できわめて緊要である。

このため、以下のような合意のもとに、定期的会合「Ｎ－２０」を立ち上げることとした。

Ｎ－２０で双方が真にフランクな実りある討論を行えるよう、最初に次のようなルールを相互に了解しあっている。

① 人数は各１０名とする。その合計数２０が「Ｎ－２０」という愛称のもととなった。(メンバーは、全体の親近感を醸成するため、なるべく固定するようにする。)

② 会議の議事録は作成しない。

③ 会合での発言は、原則、「個人の意見」と考え、のちに「誰が何といったか」を引用してはいけない。

④ 経費分担の原則。

日仏原子力専門家会合（Ｎ－２０）
開催一覧

第１回　　於　サクレー「ゲストハウス」
1991年９月
高レベル廃棄物処分を含む核燃料サイクルバックエンド
カール、（バンドリエス）、

第２回　　於　「奈良公会堂、奈良ホテル」
1992年10月
ＦＢＲ　＆　ＨＬＷ
カール、（バンドリエス）

第３回　　於　ニーム「シャトーモンコーホテル」
1993年10月
Pu利用（軽水炉、高速炉）
カール、（バンドリエス）

第４回　　於　金沢「エルフプラザ」
1994年11月
原子力開発計画と経済性向上
カール、村田

（１年空き）

第５回　　於　シャンパーニュ・エペルネー
1996年５月
高速炉開発、高レベル廃棄物管理
ドレス、村田

第６回　　於　佐渡「ホテル佐渡」
1997年10月
燃料サイクル・バックエンド
ドレス、池亀

（2000年４月28日　村田浩氏　逝去）

第７回　　於　フランス、ベルサイユ「トリアノンパレス」
2000年９月
２１世紀に向けた発電炉･研究炉
コロンバニ、秋元

第８回　　於　鹿児島「城山観光ホテル」
2001年11月
原子力市場の需要と動向
コロンバニ、秋元

第９回　　於　フランス、ディナール「グランドホテル」
2002年９月
原子力の経済性
コロンバニ、秋元

第10回　　於　松山「大和屋本店」
2003年10月
原子力発電と燃料サイクル事業の展望
ビュガ、秋元